震災プロジェクト

東日本大震災が“ランニング・イベント”に与えた影響[†]

山内 やよい* 中村 好男**

Impact of the Tohoku Pacific Coast Earthquake on Running Events[†]

Yayoi YAMAUCHI* and Yoshio NAKAMURA**

Abstract

Purpose : The purpose of this study was to investigate the number of the running events held or canceled after the Tohoku region Pacific coast earthquake, and to determine how many people lost the opportunity to participate in running events.

Methods : The large internet running information site “RUNNET” was utilized. First of all, our survey was conducted by using a “detail search” on RUNNET to investigate the number of events scheduled to be held from January through May in 2010 and also in 2011. Then each event scheduled was investigated with regard to whether it was held or cancelled after March 11th, 2011. Subsequently, our survey checked the number of applicants for each event, according to their official homepage or RUNNET event report page.

Results : The results showed that there were 38 events held in the 1st week of March in 2011, but there was a dramatic decrease in the number of events to 7 in the week following the earthquake. Overall, 118 events were cancelled in the 3 months after the earthquake. The findings of our investigation showed that a total of over 270,000 runners lost opportunities.

Discussion : The investigation confirmed that cancelled events were not only limited to the Tohoku region, but also occurred in areas not affected. It possibly suggests that there were concerns for victims and affected areas. The canceling of many events may have caused behavioral changes for people who tried to start or maintain their healthy lives through participation in running events.

Key words : Earthquake, Sports Events, Running, Lost Opportunity

1. 緒 言

2011年3月11日14時46分に発生した東北太平洋沖地震は、東北地方を中心に死者1万5,467人、行方不明者7,482人（2011年6月20日現在）¹⁾という未曾有の大惨事をもたらし、東京電力福

島第一原子力発電所の事故による電力不足や放射能拡散の問題が発生した。日本のスポーツにおいては、文部科学省から日本野球連盟に計画停電に伴う協力要請通知²⁾が出されるなど、全国各地の様々なスポーツイベントの中止や延期が報道された。

[†]原稿受付 2011年12月12日 原稿受諾 2011年12月26日

*早稲田大学大学院スポーツ科学研究科 〒359-1192 埼玉県所沢市三ヶ島2-579-15

**早稲田大学スポーツ科学学術院 〒359-1192 埼玉県所沢市三ヶ島2-579-15

*Graduate School of Sport Sciences, Waseda University, 2-579-15, Mikajima, Tokorozawa, Saitama, Japan (359-1192)

**Faculty of Sport Sciences, Waseda University, 2-579-15, Mikajima, Tokorozawa, Saitama, Japan (359-1192)

わが国では、これまであらゆる角度から身体活動やスポーツ活動の推進が行われてきた³⁾。なかでも活動促進では、心理社会的なアプローチや行動科学的介入の有用性⁴⁾が示されてきた。また、活動を促進する環境要因に着目した知見も報告されている^{5) 6)}。このような背景において、“ランニング”はその手軽さや健康効果から、2006年からの4年間で実施人口が200万人以上増加しており⁷⁾、2010年の種目別運動スポーツ推計人口では、883万人と報告されている⁸⁾。しかしながら、東日本大震災発生後、日本陸上競技連盟は、2011年3月13日に予定されていた名古屋国際女子マラソンの中止を決定し、その後、4月17日開催予定だった長野マラソンも中止された。国際大会への選手選考や体調管理だけでなく、市民ランナーへの影響はどのようなものであったのだろうか。

本研究は、“ランニング・イベント”に着目し、震災後の全国各地のランニング・イベントの開催・中止状況の実態と、ランニング・イベント参加予定者の機会損失の実数を明らかにするものである。

2. 研究 方 法

調査は、インターネット大手ランニング情報サイト“RUNNET”(<http://runnet.jp/>) (注1)を利用した。HP上の“こだわり検索”ページ(<http://runnet.jp/runtes/search.php>)において、開催予定だった大会をすべて調査したうえで、2010年と2011年の1月から5月までのランニング・イベントの数と、震災後の2011年3月第2週以降計画停電終了の4月第3週までの週ごとのランニング・イベントの開催数を明らかにした。また震災後3か月間の中止イベントにおけるおおよその申込み者数を明らかにするため、さらに各イベントオフィシャルページとRUNNET上の大会レポートページにより調査した。

3. 結 果

2011年3月に開催されたランニング・イベン

Table 1 1月～5月の開催イベント総数の比較
(2010年と2011年)

	2010年	2011年	増減	前年比
1月	103	111	+8	108%
2月	94	107	+13	114%
3月	135	72	-63	53%
4月	103	69	-34	67%
5月	99	77	-22	67%
計	534	436	-98	82%

ト数は72件であり、前年より63件減少し前年比53%であった。2011年4月開催は69件で、34件減少し前年比67%であった。同様に2011年5月は77件で、22件減少し前年比67%であった (Table 1)。Fig.1に2010、2011年の1～5月に開催されたランニング・イベント数の週あたり平均値を示した。2011年の3～4月については、週毎の開催数を表示した。3月第1週には前年を上回る38のイベントが開催されたが、3月11日に発生した東日本大震災の直後(第2週)には中止されるイベントが相次ぎ、同週末に開催されたランニング・イベントは7つにとどまっていた。2011年3月11日以降、主催者により正式に中止されたイベントは3月第2週以降6月第2週までの3ヶ月間で118件であった。6月以降の中止イベントは主に福島県内で開催予定のものであった。中止されたイベントのおおよその参加予定者数を把握するため、RUNNET、及び各イベントオフィシャルページにておおよその申込み数を調査し、示した (Table 2)。なお、当年度の申込み数が把握できなかったイベントについては前年実績を参考値として用いた。その結果、地震発生後3ヶ月間の機会損失ランナー数は約27万100人であることが明らかになった。

4. 考 察

本研究の目的は、震災後に予定されていたランニング・イベントのうち、中止されたイベントについて調査し、機会損失となったランナーの実数を明らかにすることであった。調査の結

Fig.1 1月～5月の週の平均開催イベント数の比較 (2010年と2011年)

果、中止されたイベントは118件確認され、東北地方に限らず、関東、近畿、中国、四国地方でも多くのイベントが中止になったことが明らかとなった。この結果は、物理的にイベント開催に支障が出たケース以外でも、被災地や被災者への配慮という観点で中止されたイベントが多いことを示唆している。また結果より、震災後に中止が発表された118件のイベントにおいて、総数約27万人のランナーが機会損失を被ったことが明らかになった。ランニングという種目の特性上、エントリーはイベントの少なくとも1年～1ヶ月前までに完了していることを考慮すると、中止になったイベントの申込者が開催されたイベントへ流れたとは考えにくい。よって、機会を損失したランナーは失った機会

の補てんは行っていないと推察される。

また、6月以降に中止された主なイベントは福島県内で開催予定だったものである。今回の地震による原子力発電所事故の影響で放射能拡散が発生し、その被害が継続することで周辺住民の運動機会の損失が長期に渡る可能性も表出している。

近年のランニング・イベントに関して、ランニングを競争目的で参加する人よりも「健康充足型」や「快走適応型」という、ランニング・イベントに参加することを楽しむ人が多くなっており、社会経済的な「ランニング観」が創出されていることが報告されている⁹⁾。このようにランニング・イベントは、健康行動の動機づけや継続に大きな役割を果たしていると推察さ

Table 2 震災後3か月間の中止イベント数とおおよその申込み人数

日程	中止 イベント数	おおよその 申込み人数（人） （※機会損失人数）
3月第2週	28	34000
3月第3週	14	32000
3月第4週	14	31300
4月第1週	11	22300
4月第2週	7	43200
4月第3週	10	47700
4月第4週	7	14200
4月第5週	1	5000
5月第1週	3	12400
5月第2週	5	13100
5月第3週	7	9700
5月第4週	4	2200
5月第5週	3	300
6月第1週	1	100
6月第2週	3	2600
合計	118	270100

れる。東日本大震災後のランニング・イベントの中止は、ランニングによって健康行動を開始・維持しようとした行動変容や行動継続に影響を与えた可能性があるのではないだろうか。

RUNETは多くの国内ランニング・イベントの取り扱いがあるため、本研究ではデータソースとしてRUNNETを利用した。しかしながら、限定的に用いた1ソースであるため、国内で開催及び中止されたイベントの総数を網羅していない。今後は、全国のイベント総数やランナー数の把握、海外からの観光を兼ねたランナーの増減なども調査をする余地があるだろう。今後、中止となったイベントの収支の詳細や震災後の市民ランナー数の変化などを縦断的且つ定量的に調査することも、震災がランニング・イベントに与えた影響に関する研究を進めていく上での課題となると思われる。

（注1）RUNNET：株式会社アールピーズが運営する、ランナーのための情報サイト。サイト上で、大会へのエントリーや大会結果の閲覧、ランニンググッズの通信販売などが可能である。

参 考 文 献

- 1) 警視庁；平成23年警察白書, 2011. 11. 02
アクセス<http://www.npa.go.jp/hakusyo/h23/youyakuban/youyakubann.pdf>.
- 2) 文部科学省；社団法人日本野球機構に対する通知について, 2011. 11. 02アクセス
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/23/03/1303864.htm.
- 3) 下光輝一；運動・身体活動と公衆衛生(1)「社会のニーズにこたえる運動疫学研究を」, 日本公衆衛生誌, 56(1), pp.44-47, 2009.
- 4) 井上茂, 下光輝一, 身体活動と生活習慣病 身体活動推進のための行動医学的アプローチ—トランスセオレティカルモデルの応用—, 日本臨床, 58, pp.538-544, 2000.
- 5) Saelens BE, et al.; Built environment correlates of walking a review, Medical Science Sports Exercise, 40(7), pp.550-566, 2008.
- 6) 岡浩一郎, 他；日本人成人の身体活動に影響を及ぼす心理的, 社会的, 環境的要因の共分散構造分析, 体力科学, 60, pp.89-97, 2011.
- 7) SSF笹川スポーツ財団；スポーツライフデータ2008—スポーツライフに関する調査報告書—, SSF笹川スポーツ財団, p.28, 2008.
- 8) SSF笹川スポーツ財団；スポーツライフデータ2010—スポーツライフに関する調査報告書—, SSF笹川スポーツ財団, p.28, 2010.
- 9) 山田陽子；ランニング・イベント参加者の活動実態とランニング観に関する調査研究, 日本体育学会大会号(42A), p.147, 1991.